

〔市長への政策提言〕 2026.09.12 提出

件名：「公共アート維持管理の担当部署（専任）」設置の検討を

上尾市役所正面近くに設置されている清水久兵衛氏の造形作品《飛立容》は劣化が著しく、作品表面の清掃だけでなく、専門家による修復が必要です。

《飛立容》は、『上尾市民憲章』に謳われている「教育・文化を高め、国際感覚を養い、未来をひらく上尾をつくります」の〈象徴〉として、1991年に当時の予算で約3000万円を投じて設置されたようです。

提言者が調べた情報や、議会一般質問（2022年9月）の答弁によれば、市が管理しているモニュメントやオブジェ等の数は12か所あり、それぞれの管理状況はオブジェ等が設置された場所を所管する部署が管理をしており、《飛立容》については、担当課の総務課が一般的な範囲で作品の表面の清掃を民間会社に委託しているとのこと。それら市内の他の作品のメンテナンスを含め、「公共アート維持管理の担当部署（専任）」を設置する方向での検討をぜひお願いいたします。

清水久兵衛氏の造形作品は他の自治体でも設置されており（京都市勧業館の正面にある朱色のモニュメント《朱鳥舞》など）、その作品はどのように維持管理がされているのかなど、調査したり検討する余地は十分あると思われます。

市長は自らの公式X（エックス）で、《飛立容》について「大切な勝負の前はくぐってゲン担ぎします！」と投稿していますが、それほど大切な作品であるならば、市内の公共のアート作品の維持管理について専任の部署を設置するべきではないでしょうか。